

三重県農業高等学校

同窓会通信

第20号

発行 三重県農業高等学校 同窓会 (松阪市嬉野川北町530) ☎0598 42 1260

いあいさつ

同窓会会長 小竹 行哉



初冬の候、同窓会会員の皆様にはますます御健勝のこととお慶び申し上げます。また、平素は同窓会活動へ格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

令和二年三月から始まったコロナ禍によってあらゆる活動に制限を受け、長く続いた騒動も本年五月から五類感染症になってようやく元の活動へと出来る様になりました。農業大学校においてもコロナ禍期間中は試行錯誤しながら関係者の皆様のご尽力で学校運営や学生生活を支えていただきました。誠にありがとうございます。誠にありがとうございます。しかしながら同窓会活動は停止してしまい、ご迷惑をおかけしたことをお詫びいたします。前回の令和元年度第十九号同窓会通信では「令和二年度に五年置きに開催する総会を開催し、規約改正や同窓会運営の変更を行う予定であり、その為に対策委員会を立ち上げますのでご協力をお願いします。」と書きましたがコロナ禍で活動停止し四年が経過しました。現在、役員会では令和二年度の次の総会開催年度である令和七年度に総会を開催す

る予定で考えています。以前にもお知らせしたように規約改正や運営方法の変更をお諮りしたいと考えています。また皆様にご協力をお願いする場面もあると思います。その際はよろしく願います。皆様には十月下旬にハガキでお知らせが届いていると思いますが、本年度より活動を再開していく所存です。今年はコロナ禍以前の規模ではありませんが農大祭を開催いたしました。そこで同窓会では出店やOBが気軽に顔を出せる場所作りをします。コロナ禍以前にも農大祭に合わせた同窓会のイベントを開催しましたが、これからも農大祭で現役やOBが顔を出して情報交換や総会を開催していく考えです。皆さんと一緒に同窓会活動を盛り上げていきたい所存です。最後になりますが、同窓生皆様の益々のご発展とご健勝をお祈り申し上げます。



いあいさつ

農業大学校校長 中西 正明



同窓会会員の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。また、平素は、農業大学校の運営にご理解とご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。今年四月に、秦和夫校長の後任として異動してきました中西です。よろしく願います。コロナ禍において、同窓会通信を長く発行していませんでしたが、今年四月に、第二号を発行することとなりました。今後は、年一回の発行を目標に同窓会役員の方々とともに、取り組んでいきますので、ご支援とご協力を願っています。

さて、本校の現在の在校生は、二年課程の二年生が二十三名と一年生が三十一名、一年課程六名の計六十名となっております。近年の在校生数下回っておりますが、平成三十年から県内の全県立高校に訪問し、進路指導の先生方との情報交換や学校紹介などを通じて本校をアピールしてきた成果が、現れてきていると考えております。

一方で、企業求人への強化により高校生の就職率が向上していることや、高校生数が減少していくことの影響から、今後入校生を確保していくことが厳しくなると思えますので、SNSなどを通じて、本校の情報や魅力発信を強化していきたいと考えています。また、本校では、令和五年度の重点項目として、四つの目標（意欲あ

る学生の確保、農業農村をリードする人材の育成、学生教育の充実、就職・就職支援の強化）を掲げ、学校運営や業務の改善を進めています。このなかでも、意欲ある学生の確保は、最も重要な取り組みであります。学校の魅力を高める上において、就職・就職支援も重要であり、学生の進路希望に沿った助言・支援の強化に取り組んでいます。

本校における近年の就職・就職状況については、法人就農を含めた就職率が四割程度、JAや農業機械メーカーなどの農業関連への就職率は三割四割となっております。今後の就職率を高めるために、本校に求人していただく農業法人や農業生産に取り組む民間企業、農福連携に取り組む福祉事業所などを新たに掘り起こしながら、企業説明会や企業訪問などを実施し

話題



福島短大との交流

本校では、JGAP(トマト、キウウリ)の認証を取得しています。福島農業総合センター農業短期大学校もGAPの認証取得に取り組んでおり、両校は平成二十九年度から、GAPの取組を通じた交流(両校の農産物の交換販売や相互訪問)を行ってきました。令和五年度については、九月十九日(火)から二十日(水)にかけて同短大から学生五名と職員二名が本校に來校し、交流会を行いました。

ているところです。また、近年は三重県職員C試験(農業分野)に合格する学生が、毎年二名程度あり、今年度は三名が合格しています。さらに、今年度から、三重県立学校実習助手採用選考試験(農業)の受験資格に「農業大学校(二年課程)卒業」が追加され、新たな活躍の場が広がりましたので、お知らせのの皆様方にもぜひご紹介いただきたいと思えます。最後に、同窓会会員の皆様方には、入校生の確保や学校運営に対して、変わらぬご支援をお願いさせていただきますとともに、皆様方の益々のご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。

なく、学校生活や寮生活、自治会の活動状況、学祭に向けた準備など多岐にわたった情報交換を行いました。お互いにとって新たな発見や気づきもあり、有意義な意見交換ができました。

また、二十日(水)に開催した本校恒例の水曜販売に、同短大の皆さんにも参加してもらい、同短大で生産加工された農産物(梨、うどん、ドライフラワー)を販売してもらいました。来場者の方々は、普段販売されていない商品を我先にと買い求められ、おかげ様で完売!同短大の皆さんも、三重でのお客様との交流を大いに楽しまれたようです。



令和五年度 海外研修を終えて



令和五年十月一日(日)から六日(金)までの六日間において、二年生二十三名と引率職員二名がマレーシアとタイへ海外研修に行ってきました。本校では、国際情勢や農産物の輸出入等への理解を深めるため、以前から海外研修を行ってきました。近年は、コロナ禍のため県内や国内での研修にとどまっていたが、四年ぶりの海外研修となりました。マレーシアでは、都市型植物工場(Xファーム)や地元のスーパを視察し、植物工場では、日頃から水耕栽培を実習する学生から、養液の再利用システムといった専門的な質問が出るなど、熱心に見聞を広めていました。また、スーパでは、様々なトロピカルフルーツが安価で販売されており、果樹専攻の学生が、初めて見る珍しいフルーツの味を堪能していました。タイでは、有機栽培農園や花市場の視察、水稲種子生産農場で熱低地域ならではの栽培管理の研修を受けたほか、アユタヤ遺跡訪問やエレファントライドの体験などにおいて、歴史や文化に触れ視野を広げていました。海外旅行が初体験の学生も多く、初めは恐る恐る味見していたエスニック料理にも次第に慣れ、特に食で困ることもなく、全員無事に研修を終えることができました。



一年生、校内意見発表会で思いを語る



学生が早い段階で将来ビジョンを描けるよう、農業の思いや将来の夢などを発表する意見発表会を、今年度から一年生のカリキュラムとして組み入れ、初めての発表会を十月二十六日(木)に開催しました。農大での学びや将来就きたい仕事はもちろん、マイファーム法人化の設計図、夢見るライフスタイル、自分を変えるきっかけとなった人と言葉など、思いを熱く語り、聴く人の琴線に触れる話があふれる発表の場となりました。人前で発表するという言語化を通じて、自分の長所短所を見つめ直すといった、自己分析にもつながったようです。職員としても、学生の将来に関するの気付きが深まり、それが叶うよう応援したい!という気持ちで新たな一日となりました。

新たな講義

令和二年度から、専門必須科目に「スマート農業概論」を新たなカリキュラムに加え、ICT技術やドローンの活用、スマート農業機械の操作方法などの講義を行っています。また、令和四年度から、教養科目に「キャリアデザイン」を新たに加

各専攻コースの様子

- ▼茶業専攻コース
茶業専攻は、現在二年生二名、一年生二名、そして一年課程一名の計四名の少数精鋭で、チームワークを大切に頑張っています。日々の実習は、従来通り毎朝茶業研究課(亀山)に出向き、施肥、防除、被覆などの栽培管理作業を中心に、収穫期は各茶期とも収穫・加工を実施し、その後の再製加工も実習の一環で行っています。また、収穫した茶は、商品としてパッケージを行い、水曜の販売実習にて販売しています。毎日の移動時間により実習時間は少し短いです。日頃からの実習先との調整を密にし、より中身の濃い実習に心がけ、消費者に喜ばれるお茶づくりを目指しています。
- ▼野菜専攻コース
野菜専攻は、二年課程二名(一年生六名、二年生六名)、一年課程三名の計五名で日々実習を行っています。実習では、施設野菜(トマト、キュウリ、イチゴ)を中心に、露地野菜を含め二十数品目の栽培管理、出荷調整、販売を行っています。ここ数年、県内でもイチゴの天敵利用が盛んになってきており、本校でもハダニ類をはじめとし、アブラムシ類、アザミウマ類の防除に天敵を導入し、IPMの実践を進めています。
- ▼果樹専攻コース
果樹専攻は、二年課程二名(一年生四名、二年生二名)で日々実習を行っています。実習は、県畜産研究所で行っており、肉牛・酪農を中心とした家畜の飼養技術、飼料作製、機械操作等の技術を学んでいます。研究所職員からの指導を得ながら、肉用牛五十二頭と乳用牛四十頭(R5年度三重県畜産研究所要覧より)の世話をしています。近年では、学生と年齢も近い農業大学卒業生が、畜産研究所に配属されており、学生も気軽に質問しながら実習に励んでいます。
- ▼水田作専攻コース
水田作専攻は、一年生七名、二年生六名、一年課程二名、合わせて十五名です。十二筆、約三二〇アールの実習圃場の作付け品目は、水稲(コシヒカリ、みえのゆめ、あゆみもち)、麦(あやひかり、もち麦)、大豆(フクユタカ、丹波黒)、小豆等、露地野菜(キャベツ、ブロッコリー)です。収穫物は農協に出荷するほか、毎週水曜日の販売実習で地域の皆さんに購入したいと思っています。水販では、農産物の鮮度の見分け方や食べ方などの商品知識が求められる実践力を高める場となっています。また本専攻では、他の専攻に比べて農業機械を操作する機会が多いのが特徴で、この経験を生かして、農業法人や機械メーカーに就職する学生が多くいます。近年、水田農業の現場において、スマート農機の導入が進んできており、本校でも直進アシスト付きトラクターなどを導入して、現場での対応力を高める実習も行っています。
- ▼花き専攻コース
花き専攻は、二年課程二年生三名と一年生五名の計八名で実習を行っています。切花・鉢花・花壇苗・花木・観葉植物と幅広い花きについて実践的な技術や知識の習得を目指しています。最近の実習では、シクラメンの葉組みやパンジーピオラ等花壇苗の手入れ、暖房機の稼働に向けた内張フィルムの補修を行いました。また、農大祭での販売や体験教室開催に向けて、ドライフラワーや押し花など花きの加工にも取り組んでいます。
- ▼果樹専攻コース
果樹専攻は、二年課程二年生五人、一年生七人で実習を行っています。今年度は、近年珍しく一年課程の学生はいません。最近の実習について、カンキツでは、極早生温州の収穫が十月上旬から始まっており、年末には晩生の青島温州、年明けからは落葉果樹では、クワの収穫の他、カキの加工実習(干し柿)なども行いました。学生は、日々果樹栽培の難しさに苦戦しながらも、一生懸命実習に取り組んでいます。



お知らせ

学生募集

農業大学校学生募集の概要についての詳細は、三重県農業大学校ホームページを「ご確認ください」。
<https://www.pret.nie.jg.jp/nodai/hp/>

養成科二年課程及び一年課程

(1) 募集する課程及び専攻コース
ア 二年課程

水田作コース、茶業コース、野菜コース、花きコース、果樹コース、畜産コース

イ 一年課程

水田作コース、茶業コース、野菜コース、花きコース、果樹コース、畜産コース

(2) 募集定員 四〇名

ア 二年課程 三〇名程度
イ 一年課程 一〇名程度

(3) 経費

授業料 年間 十一万八千八百円
その他 二年課程の二年間で百万程度、一年課程で四十万程度

経営のイノベーションにチャレンジしませんか (みえ農業版MBA養成塾)

みえ農業版MBA養成塾（以下養成塾）は六年を経過し、今年度第七期の塾生を募集しております。

塾生のメインターゲットは、設置当初、県内先進農業経営体での雇用型インターンシップと三重大学学

院との連携を特徴に、新規就農希望者としていましたが、令和四年度からは、農業従事（経営）者も対象に加え、養成塾を開講しています。養成塾では、大学教授の指導のもと、塾生が描いたビジョンをブラッシュアップし、その実現のための経営革

東海近畿地区 農業大学校 学生スポーツ大会

令和五年度の東海近畿地区農業大学校学生スポーツ大会が、五月二十五日（木）、二十六日（金）の二日間において、兵庫県三木市で開催されました。令和元年以来の全校参加の大会となり、大いに盛り上がりました。本校からは二年生二十四名と一年生三十二名が参加し、結果はバスケットボールが準優勝、卓球女子シングルスが優勝、卓球男子ダブルスが三位、テニス男子ダブルスが優勝、テニス女子ダブルスが準優勝と大健闘！スポーツを通じ、学生同士の絆深まる二日間となりました。



新プランの作成を支援しています。農業経営の改革（イノベーション）に取組む一助として、養成塾を利用されてはいかがでしょうか。是非、農業大学校農業ビジネス人材育成課までお問い合わせください。

東海近畿スポーツ大会に参加して

養成科二年 川口 大輔



今回、東海近畿地区農業大学校学生スポーツ大会に参加してとても楽しく、そして熱いスポーツ大会となり、私たちにとって最高の思い出となりました。また、昨年とは違い、東海近畿地区のすべての農業大学校が集まることができ、より一層盛り上がることでできました。

私が出場したバスケットボールでは、昨年は一勝も挙げられず悔しい思いをしました。今年度はバスケット経験の後輩が入ったことや、放課後の練習の成果が表れ、準優勝という結果が残せ、とてもうれしかったです。また、昨年仲を深めた岐阜県や愛知県の皆さんと再会できたことが、とてもうれしかったです。決勝の後に行われた、こちゃ混ぜでのバスケのゲームでは、他県の壁を越えて一緒にプレーできてとてもよかったです。一日目の最後にあったレクリエーションでは、兵庫県さんが考えてく

れた〇×ゲームが本当に難しかったです。他県の人と相談したりしながら考えることができ、いい交流になりました。寮の友達か、恐竜の姿で盛り上げてくれたこともいい思い出です。

スポーツ大会から日が過ぎ日常に戻って、皆さんは農業について学び、そして実践を繰り返しているのだと思います。今振り返ると大勢の農業を志す人が集まり、スポーツで競い合うなんてことは、私の人生の中で、もうないと思います。あんなにバスケットが面白い人が、明日からは農業をやっていると考えると、なんか面白くなってきますね。

農業従事者の高齢化が進んでいる近頃ですが、ちよつと離れた土地で、一緒にスポーツ大会で競ったあの子どもたちも農業をやっていると考えると、「案外若者多くね？」と思ってしまう。今回大会に参加した仲間だけでなく、日本全国には農業を志す沢山の若者がいます。「そんな仲間とお互いに刺激しあうことができれば、農業はもつと発展していくのでは？」と思いました。



農大生からのメッセージ

学校生活・寮生活について

養成科一年 勝村 琉生



私は、小さい頃から農業に興味を持ち、高校生の頃に畜産農家を志すようになりまし。高三の夏休みまでは、大学に進学しようと考えていましたが、畜産農家を志すためにまず実習がしたいの思から、実習の多い農業大学校に進学を決めました。

また、私の家は学校から少し遠かったため、寮生活を選びました。初めての寮生活だったこともあり心配もしましたが、知り合いの先輩や仲間くしてくる先輩、同級生のおかげ、すぐに慣れることができました。

寮生活では、友達と夜遅くまで話をしたり、先輩と一緒に体育館でバスケットなどのスポーツをしたり、みんなでドライブに行ったりと、とても充実した生活を送っています。ただ、一緒に暮らしている中で、友達のいやなところや先輩のやめてほしいところなども見えてきますが、それよりも、みんなの普段の生活では見えない優しさや温かさなどが感じ、絆が深められることが大きいと思います。

また、寮の仲間との意見交流は、自分の畜産専攻と違う水田や果樹野菜や茶業などで、どのようなことをしているのかなどを知れるのもいいところの一つです。学校の良いところの一つに学生食堂があります。学生食堂は、寮生や通いの学生のだけれども利

用できます。とても美味しいと人気で、たくさんの方が利用しています。食事を作ってくれるおばちゃんとの距離も近く相談にも乗ってくれ、食事をするだけでなく憩いの場でもあります。学校生活は、自分のやりたい畜産の実習が毎日できて、とても充実しています。知らないことがばかりだったので、毎日の実習の中で先輩たちがやっていたことや、先生がやっていたのを見て、聞いて、教えてもらいました。これからは自分ができる作業をして、その後どう動くべきなのか、どうしたら作業が楽にできるかなども考えられるようになりたい。日本で一番の畜産農家になるという夢を目指して、この二年間、日々の実習から、しっかりと頑張っていきたいと思います。

私の抱負

養成科二年 鈴木 竣介



私には、夢があります。それは地元で稲作農家になり、その上地元のみんなが楽しめる公園を作ることです。

私が小学校へ通った通学路は田んぼばかりの農道でした。田んぼしかなく退屈な通学路でしたが、田んぼしかないことがとても開放的で、最高に心地のいい通学路でもありました。そして、下校すると真っ先に公園へ友達と遊びに行くのが、毎日のルーティーンでした。自然が多い環境で育った私は、自然に囲まれて過ごす楽しさを知ることができました。だから、インターネットを使ってどこでも友達とゲームで遊ぶ今の時代に、小学生の子供たちに外で騒ぎ遊

び疲れる楽しさを知って欲しいのです。このために、具体的には、子供たちがいつでも遊びに来られ、ボールなどの道具を自由に使える広場や、お年寄りの方が散歩ついでに一休みできるベンチと花や草木を見て癒されています。そして、稲作農家としての目標は、地元で一番の農家になることです。そのなかで、余裕ができた後なら高校時代にプロジェクト研究で関わっていた伊勢いもを育てたいと考えています。伊勢いもは、植えた種芋から出た芽の一つを残して他を摘芽するため、一株から一つしか芋が取れません。だから、翌年の種芋として、収穫量の約四〇％を出荷せずに残さなければなりません。伊勢いもはたいへん効率の悪い作目で、生産者も減ってきています。伝統ある伊勢いも栽培を守っていくために、伊勢いもの種芋を生産する種芋生産農家になって、伊勢いも農家へ種芋を販売していきたいと考えています。

また、私は夢に貪欲で、ハウス野菜や菌類の栽培のほか、地元の方たちと交流を深められるような憩いの場を作ることも、やりたいことの夢をたくさん持っています。

このためには、今勉強したいことが山ほどあり、勉強し切れるか不安ですが、今できることに全力を注ぎ、出来るだけ自分の夢に近づけるよう学校生活を送っていきます。



卒業生からのメッセージ

令和三年度卒業 水田作専攻 小林 翔



実家の農業を継ぐ予定だったので、より専門的な所で農業を学びたく、農業大学校へ入学しました。農業大学校では実習で実践的な農業を学べて、またフオークリフトの運転免許など様々な資格を取ることができました。農業法人に就職後すぐに農業機械を運転できるなど即戦力として農作業を行えたので、農業大学校の日々は、現在の自分の糧になっています。

現在は水稲、麦、大豆、ブロッコリーなどの栽培に携わっています。農業は自分の性に合っているように、嫌だなと思うことがなく、一日楽しいです。若い人たちが少ないという農業の現状があり、私たちのような若い世代が、これからの農業を引っ張っていかたいです。

事務局からの連絡

久しぶりに同窓会通信が発行できました。今後、同窓会通信は個別に発送せずに、HP (<https://www.prel.mie.ac.jp/nodai/hp/>) に掲載しますので、ご覧ください。また、同窓会総会を令和七年度に予定しています。同窓会委員の皆様は、ぜひご出席ください。なお、総会開催のご案内は、HP に掲載させていただきます。

卒業生の進路

令和4年度の二年課程卒業生は21名で、その進路状況は、就農1名、農業法人就農5名、農業関連企業5名、JA等団体・公務員等5名、その他(農業外企業等)就職等5名となりました。一年課程修了者は8名で、就農3名、農業法人就農2名、研修・進学3名となりました。

卒業生進路状況

卒業年度		H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
農業関連就業	自営	7	11	2	5	6	5	4
	農業法人等就職	9	4	5	2	6	6	7
	小計	16	15	7	7	12	11	11
	研修・進学	1	3	1	3	3	8	3
	JA等団体・公務員等	5	2	1	2	3	3	5
農業関連就職等	3	2	2	0	5	4	5	
合計	25	22	11	12	23	26	24	
その他就職等	5	9	2	4	5	8	5	
卒業生数	30	31	13	16	28	34	29	
就農率(%)	53.3	48.4	53.8	43.8	42.9	32.4	37.9	
農業関連就業率(%)	83.3	71.0	84.6	75.0	82.1	76.5	82.8	

三重県農業大学校情報!

公式インスタグラム開設!



Homepage



Facebook



農業大学校PR動画



日々の実習の様子や、農大マルシェ(水曜販売)に関する情報などをお届けします!

入校者数等の概要

令和5年度入校者

	定員	受験者数	合格者数	合格率	入校者数
養成科二年課程	30名	39名	34名	87.2%	32名
養成科一年課程	10名	10名	6名	60.0%	6名

令和4年度入校者

	定員	受験者数	合格者数	合格率	入校者数
養成科二年課程	30名	29名	28名	96.6%	26名
養成科一年課程	10名	11名	11名	100.0%	11名

令和3年度入校者

	定員	受験者数	合格者数	合格率	入校者数
養成科二年課程	30名	26名	25名	96.2%	23名
養成科一年課程	10名	14名	12名	85.7%	12名

- 農業大学校同窓会役員名簿
- 会長 小竹 行哉 (農大四回生・平成元年卒)
 - 副会長 佐藤 晋治 (農大五回生・平成二年卒)
 - 会計・書記 野口 伸也 (農大五回生・平成二年卒)
 - 監事 中谷 秀也 (農大十回生・昭和五十七年卒)
 - 監事 浦狩 芳行 (農大十回生・昭和五十五年卒)
 - 監事 宮田 征典 (農大九回生・平成十六年卒)